

若老

特 244
947



0055917-000

特 244-947

国民総動員の実相

松木直亮・講述

文成社

昭和 12

AJB

国民総動員の実相

述講下閣亮直木松 将大軍陸
序下閣藏亮原中 将中軍陸
序下閣錫野星長舎合聯合組業実京東
纂編幹博田打主豊政実録動育教

鉄十價定

行發社成文京東

特244
947

序

今や皇國は外に軍民必死の奮闘を續け内に銃後の護り澎湃として巻き起り國民は老若男女を問はず齊しく時局の重大を認識して各其分に應じて護國の責務に邁進しつゝある秋に當り國民總動員の實相なる短本を刊行せられたるは誠に機宜に適し吾人の感激する所なり。

希くは國を擧げて益々報國の至誠を捧げ愈々懸命の努力を拂ひ國民總動員の實相を吟味し協力一致して國策の遂行に精進せられん事を。

昭和十二年八月



陸軍中將 柚原完藏

178

序文

日支百万金圓的衛實は正統
化たる戦時^時然とありや戦
國は統後の二護王乃旋風激洋
と一巻手起つてあり茲に國民

は老若男女を問はず其乃譽國
一法を要す 下平に之那を教ふる
一は然ふらにあらず一は地上凡そ
の國を教ふる一は其業軍よは
かゝる戦闘に於て事せしむる要

古井柳教有勅語言踐聯等之
お田博幹之と西玉民總勅之の美
相おら冊子を刊行して平に所を
を求りらる時希一柳に取もつる益ふら
小冊とて冷く世よに紹介するも

乃 ちんま

東京市業経済会会長
勲三等 日生 野 錫

は し が き

日支の觸發は全世界に波動し、今や日本帝國はソ聯問題其他諸國との國際關係は頗る急迫しまして實に前古未有の危局に直面して來ました。かの國際聯盟脫退に關し畏れ多くも下し給はれました御詔書にも「非常の時艱」と宣はせられたが事態は益々急迫して參りました。

茲に皇國は益國運の開發産業の開發躍進に努力せねばなりません。すべての機關を戰時體制に綜合統制しまして國力の全部を擧げて總動員し以て奮起せねばなりません。是即ち國民總動員の實相でありまして軍官民を問はず、老人も若きも婦女子も擧げて一體となり、總動員の大衆化を計らねばなりません。

國家の前途をみますれば無數の暗礁は狂瀾波濤の中に出でたり沈んだりしております我國民にして眞に堅忍不拔の國民たる事はすべてを隱忍自重して萬難億難をも何のそのでたをれても尙やまぬかの楠公さんの七生報國以上の堅き決心がますます必要であります。

かの世界大戰のはじめに於てはたれもあの様に數年もかゝると思ふたものは一人もありませんで

したが此の戦争は實に足掛ケ五ヶ年に亘つてから辛うじて休戦となつたのではありませんか。
 今日我が國民の愛國心は爛漫たる櫻花の如く火の如く電光の如く赫灼として世界に閃きつゝあり
 まして如何にも一旦緩急あれば義勇奉公の國民である事を如實に示しております。勿論これは決して
 短かき時間だけでなき事は明らかであります。此の國家的感激をいつまでも長くますます憤起
 するを要します。

本書は國家總動員の實相と準備心得につき其一端を記載せるもので十分完璧でありませんが、軍
 は拙速を尊ぶの趣旨にならひ先づ國民一般の常識として知られおかれたきと思ひました事を簡単に
 書いたものでありますから追つて逐次内容を整へまして世に問ふ所あらんとします。

十二年八月

編者 打田 博 幹

しるす

目次

陸軍中將 袖原完藏閣下序

東京實業組合聯合會々長 星野錫閣下序文

一、陸軍大將 松木直亮閣下の講演

二、國民總動員の實相と其準備について

三、資源に物質的資源と人的資源あり

四、國家總動員準備の大概

(一) 資源局

(二) 總動員に関する平時法令

(三) 精神動員

(四) 人員動員

(五) 産業統制と動員

(六) 財政動員

五、我國軍需品工業の狀態

國防と國産振興

陸軍大將 松 木 直 亮 講演

左に掲ぐる講演は先に松木陸軍大將が特に國産獎勵振興及國防の主旨を治く世上一般に知悉せしむるために「ラヂオ」にて講演せられたるものなり時節柄實に有益無邊なる御主旨につき特に國産振興協會の承諾を得て本冊巻頭に掲ぐる事とせり。

梵鐘が大砲となる

徳川幕府の末期に當り、黒船が頻りに我邊境を窺ふたことがありまして、それから國防の事がやかましく論議されました。其折、攘夷論の急先鋒でありました水戸藩では梵鐘を取外し之を鑄て大砲を造つたと申します。斯やうな時に一首なかるべからざるのは例の落首家でありまして、その當時

佛法を鐵砲にする無鐵砲

と批評しましたそうであります。考へて見ますれば彼の春の曉に、將た秋の黄昏に情趣に充ちた平

和の音を撞き出す此の吊鐘が、あの凄じい鐵の火をふき出す大砲に代つたのでは、如何にも極端から極端への變り方の様な氣が致しますが、此の如きことは決して昌平三百年の夢を破られたあの當時だけの事ではありません。

大戦中の獨逸

近くは過ぐる世界大戦に、國の周圍を封鎖されまして經濟孤立の境地に立つた獨逸も同様の事をやつたのであります。即ち兵器製造の原料たる銅が缺乏しましたのを屋根の銅や家財道具の金類中銅を集めたり、又傷病者用列車の寢臺に公園のベンチを應用すると云ふ様な事をやつたのであります。獨逸の例はまだしもとして遠く大戦の圏外にありました我國でも、鐵の不足から、塵捨場の隅からブリキ罐を集めて盛に賣買された様な有様でしたから、鐵瓶といはず庖丁といはず苟も、鐵で拵へた品物の價はどん／＼騰貴致しまして、吾々家庭の臺所をひどく脅威した事は皆様の御記憶に今も尙残つて居ること、思ひます。直接戦争の巷から隔つて居た我國すら、何千哩向ふの戦争の影響を受くる事が、この有様であつたのでありますから、一日平均二拾萬發からの砲彈を撃ち拂つた交戦國に於きましては、如何に物資が缺乏し、如何に軍需品製造が忙がしかつたかと云ふことは想像に難くありませんが、此等の交戦國は、資源も相當豊であり、工業が發達して居りましたのと、

人の力のあらんかぎりを盡して之を組織立て統制利用致しましたので、能く困難を凌いで行つたのであります、之を我邦の如何なる物資も自給自足と云ふ事の出来ない現況に思ひ較べて見ますと、我國では一旦事有つた場合は勿論のこと、他所の戦争のお招件を蒙つてさへとんでもない目にはあはないとは限りません。況んや文明の進歩に伴ひ、世界各地の距離は益々短縮せられますから、萬事が従来よりも一層敏感に影響して参ります。我國の昔なら當の相手の敵國へ、鹽がなかつたら幸ひ海國でありますから鹽を送る位の武士的雅量もありましたが、今は敵國の都へ、空から毒ガスの有毒細菌までを振り蒔き、或は國の四周を封鎖して相手國の老弱男女迄を糧食攻めにしやうと云ふ様な時勢でありまして、女も子供もまさかの場合は、獨逸の例の如く紙の衣服を着たり藁まじりのパンを食べなければならぬ位の事は、平素から覺悟して居らねばなりませんから、鹽を送る所ではありませんが、勿論かうした平和を破り、人生に慘禍を齎す戦争は、出来る丈避けるのは固よりであります、避け得られない場合は致し方無いのであります、一たび戦を開いた以上石に噛りついても是非勝たねばなりません。従つて梵鐘を大砲にする事位は別に不思議でもなく、いかの佛様でも許して下さるだらうと思ひます。

國防の充實

さて方今の様に、戦場に数百万と云ふ大軍を動かす場合には、其の軍需品は莫大の額に上るのでありますが、之が補給に事を缺いてはなりません。而して一方に於ては國外との交通の少くも或部分分は、杜絶することを覚悟せねばなりません。従つて國家の生存、國民の生活に必要なものを、或程度迄は自給しなくてはならぬのであります。之が爲には國內の人と物と金の一切を擧げて之を統制し、其の國の全能率を發揮せしむる手段を必要と致します。之が所謂國家總動員なのであります。此の場合國民に奉公の至誠が溢れ規律、節制、協同、團結、忍耐、剛毅等の諸徳が十分に備はつて居り、其の國の資源が豊で、産業が組織的に良く發達して居りますならば、此國家總動員は容易に行はれ、國防の目的が充分に貫徹される譯であります。之は國防の上の事でありませんが、この現代の國防目的を十分に達成する爲の準備として、平時は國富の増進、國力の進展にも役立つ方法手段を採る事は最も望ましい事であります。其の方法手段としては色々ありませうが、國內の産業を十分發達させて置くこと云ふ事は、その最も有効なもの一でありまして、之が爲には國産振興の徹底が捷徑であらうと存じます。

殆んど凡ての産業は有事の際國軍の需要に關係のないものはないのでありまして、國産を愛用することは即ち國內産業の進歩發展を促すこととなり、延いて國防の充實となるのであります。例へて申しますとお互に國産の時計を愛用致しますれば、勢ひ内地に時計工業が盛となり、平時莫大な外國品の輸入を防いで、國際貸借關係を有利にするのみでなく、是等の工場は戦時には直に大砲の彈丸に最も重要な信管と云ふものを作るのに利用せられるのであります。又窒素肥料や人造染料に就ても同様でありまして、是等の製造工場は萬一の場合には直ちに火藥や爆藥の製造に役立つのであります。

我が長足の進歩

僅々半世紀の間に、今日の文明を築きあげた我國の長足の進歩は、外國人から驚きの眼で見られて居ますが、中には此の文明の進歩を猿真似だと悪口を云ふものもあります。事實表面的の模倣に墮して内容の伴はぬものがないでもありません。今日尙無暗に舶來品を崇拜するが如きは此の一例でありまして、此の弊風が毎年輸入を超過せしめ、國家の財政を困難な立場にする大きな原因の一つかと思はれます。勿論、過去には只々進むに急なるの餘り、内を省みるの餘裕もなく、随分所謂「安からう、悪からう」式の粗製濫造品に、なやまされた經驗は我々も持ち合はさぬではありません。併し今や維新以來已に七十年、昭和の新時代に生きる我々は、はつきりと自己を内省する時に際會してゐるではありませんまいか、此の意味から申しまして我々は祖國の爲に、是非必要な産業を

發達させる事に應分の力添へをする義務があると思ひます。即ち一面には國産品の不完全なる點にも改善を加へ振興し、益々之を向上發展せしむると共に他面盛に之を愛用するの責任を國民が一齊に負擔せねばならぬと思ひます。

諸外國の實例

英國といふ國は古い傳統を尊び、國粹を重んずる國柄であります。其陸軍が長柄の剃刀を安全剃刀に代へる事に致しました。處が其の入札で落札したのが外國系の會社だといふので、輿論が仲々承知しません。遂には陸軍丈が國産品愛用の方針を無視するのは怪しからぬと云ふので、といふ剃刀の事から政治問題化したと云ふ事があります。

最近外國では國産振興と云ふ事には多大の力を用ひ種々の施設を致して居ります。其一二の例を申しますれば英國でも、佛國でも、國産品には一定の商標を付して外國品と判然區別がつく様にしてあり、又英國、加奈陀等では毎年、國産買物週間を催しまして、一方國産の愛用を奨励すると共に、他方自國産業を發展させるのは之によりて又失業者を救済する事になると云ふことを宣傳して居ります。又伊太利では、政府で使ふ或種の外國品には、法律を以て制限を加へて居ります。其の他近き所で、我國に在留して居る外國の人達が、努めて自分の國の品物を使ふこととして居るとい

ふのは、使ひ慣れて居るといふ關係もありませうが、尙ほ其の外に少しでも自國品の販路を擴げたいと云ふ心懸けからで、隨分徹底したものだと思ひます。これは各國が戦後の疲弊から、自らを救ひ復興を速かにする一の手段でもあります。又他面、國防充實の上に深い意味のある事を見逃してはなりません。

國民の奉仕

そこで消費者が、かうした意味合から或場合には、多少の犠牲を忍んでも國産品を愛用する以上、生産者が之に報ゆるの心を以て、奉仕する心懸けも極めて大切であります。我國の生産者としては、此點で一段の猛省を加へ、兩々相俟て折角芽ばへて來ました國産振興の聲を、其の聲だけに終らしたくないものと存じます。

國民總動員即ち國民的國防の準備の爲めに國民の奉仕を致すべき事の數々あります中で、最も手近な方法で此の貴い奉仕をなし得るのは即ち國産愛用による自國産業の振興でありまして、今日の國防觀念の上から見て誠に重要な意義のあることと思ひますので、之によつてお互に國富の増進なり國防上に寄與したいと云ふ考へから、一寸所感を申述べた次第であります。

國民總動員の實相

打田博幹述

從來は國防問題といへば陸海軍の力又は用兵の問題とのみ考へられ、動員といへば、専ら軍の範圍のみであると考へられておりましたが、近代的の戦争は人——金——軍需品の極めて大量を非常な短時間の間に準備集中するを要します。日清、日露兩役以後戦争らしき戦争の経験を全く缺いてゐる國を擧げて戦つた」と言はれるその兩役は、これを今日から見れば餘りにも小規模な戦争でした今日の戦争は戦闘の方法にも著しき變化を來たし、産業に技術の進歩は新らしき有力な兵器の發明を招き、即ち飛行機、タンク、毒瓦斯、高射砲、長距離砲、無線電話、装甲自動車、各種機關銃等近代科學の粹を集めた新兵器は今日の戦争と全く離るべからざる事となつたのであります。從來の戦闘は重に單純な山野の戦争でありましたが、今日の戦争は新兵器の發明が戦闘を飛行機戦と塹壕戦に一變せしめました様で、各種の機關銃は敵の陣地奪取に對し、有力な防衛者となりますので之を占領するにはあらゆる兵器の協力なくしては不可能となつたのであります。

今日の戦では、科學を利用したる装置と膨大なる兵力とを必要とするに到りまして、又相當長い

間戦はねばならぬといふ事も考へられますので、國民が一體となりて全智全能を擧げて戦はねばならぬのであります。勿論巨大なる軍隊の兵器食糧等の必要を充たすと共に又一面國民生活を保ち益産業發展に努力せねばなりません。然かも、その背後にある國民の生活を保つ出征の軍人をして後顧の憂なからしむるの努力は、戦線で戦ふ人々の努力と同様に重要なものであります。

従つて、平素から、國防に關する一切のことを調べ、國民精神の指導、不足資源の補填、經濟組織の改變とかいふことに、種々な計畫や、施設を整え、いざといふ時には、國民全體が、一團となつて整然とした活動が出来る様にせねばなりませんので、その目的を達する爲めに計畫し、施設することを國家總動員準備と申すのであります。

準備施設が不充分であればある程不利な戦ひを早くせねばならない様になります。又、この準備施設が十分に完備しておりましたならば戦ひは避けられるもしますし、かりに開戦しても必勝する事ももちろんであります。

國家總動員といふ言葉は近年唱導せらるゝに至りました。これまでは國際問題と申しますれば、兵力又は用兵のことのみ考へられて居りまして、動員と申せば直ちに陸軍、海軍の範圍のみであると思はれておりましたが。かの世界大戰がありまして各國とも苦がき経験より、國防觀念は只陸海

軍のみの動員でなく、國家總動員しまして、これにかゝらなければいかぬ事となりました。

政府も昭和二年之れが統轄事務機關として資源局を設置せられまして、各廳協力して銳意之れにあたる事になりました。尤國家總動員には、平時を目標としてすべての施設を行ふ場合と、一朝有事の際に行ふ場合と二様の場合がありますが、平時の時と一朝有事の時とは自然調査、計畫、施設の各般に亘りまして相違がありますが、能ふ限り其の兩方を期することに、常に心得がけておらねばなりません。

近時社會各般の事が益多岐複雑になりて参りましたから、能く綜合統制を致しまして、其發展伸張を圖らねばなりません。固より能く其激刺煥ゆる如き心を以て義勇公に奉ずる我國獨得の日本精神を以て、初めて能く其全効果を現はすことは茲に言ふを俟たぬ所であります。今日或は慰問に或は献金に津々浦々にまで充滿せる銃後の護りに現はれたる誠意は、此の國家總動員の根本精神のあらはれであります。

國民よ、眞の國家總動員たるの心構へに一點も缺くる所なき様十分意を致さねばなりません。只今の戦争は全國力を擧げての闘争でありますので、單に兵力の優秀、兵器の精銳なるものがあるからといふて安心しておれません、廣く國力全體の各機關を動員し、國家全般の最高發揮に對する準備

乃ち國家總動員準備を整へる爲めには物資の増産、海外給源の利用、代用品利用の促進、輸入を防ぎ輸出を奨励し、國産振興を圖り、巨額なる物資の軍需及民需に對し、適當なる物資保育の措置を講じて速かに需給の按配をなし得る萬事の用意を進めることは勿論、全國民の知力、體力が産業科學其他國家社會全般の活動分野に於てます、育成發揚せられねばなりません。

次に各種動員につき若干重要事項に關し、總動員として如何に準備按排せねばならぬかにつき只其概要を左に書いて見ましよう。

(一) 資源に物質的資源と人的資源あり

イ、人的資源

資源といふ事は誰れも物資を整調する事とのみ考へる事は、大變間違ひでありまして何と申しましても國の隆盛興亡に泉源を有する要素は精神資源確立がすべての要素となる事でありませぬ。

(一) 身體の強健なること資源の根本なり如何程忠君愛國心があるといふておりまして身體がよわくてねておりましては奉公義勇もできません。

(二) 智能の優れて技藝力の秀でたることは、國運の進展に寄與することに於て其資源たること疑なきことであります。すべての根源は其道德の善良なることが最も根本的なる資源であります。

口、物的資源

之を土地及生物に分てば土地には、農産物及礦産物に屬する天然資源の包蔵又は其育成適應力を初めとし、氣候、地勢、地位等は勿論直接間接に國產振興國運進展に寄與すること尠なくありません、又生きたるものは動物であり、又植物であり、直接又は間接に加工製造等を経て食料衣料其の他の資料となるのであります。

物の資源開發は、畢竟富の發達増進を圖ることになりますけれども、富の數量の増加のみでなく、其効用の増進を圖ることが極めて重要なことであります。今日物資の種類、利用が複雑多岐になりましたが、從來何も効用なかつたものでも、人が心身の勞をかへることにより、新たにして最も有力なる効用を發生増加せしめたものが尠くないのであつて、例へば今日水力の輸出と言はれて居るが、是れは水力發電の容易なる所では、其豊富なる電力を以て生産費の大部分を電力費に充つる化學工業製品、例へばカーバイト青酸加里の如きもの、製造に充て、之を輸出までする様になり、むかしは水のため諸般交通の妨げとなり、資源を開發するに障害となつたものが、今日では其水流が大きな利益となりました事は寧ろ驚嘆せざるを得ません。

近來産業合理化問題等はみな此の重要資源方策の現はれであります。

ステープル、ファイバー、人造絹糸、人造藍、人造樟腦、人造皮革、人造ゴム、硝酸の合成、空中窒素の固定等既に完成し、又完成せんとするもの、數も少なくありませんが、尙今後に於ける一段の進歩發展が期待せねばなりませんので、特に我國では鑛區整理、砂鐵の精煉等による鐵鑛不足の補給、石炭液化、合成の方法による人造石油の製出による石油用代品等は、其必要最も緊切なものであります。

世界大戰に於て、總動員に關する準備を缺いた爲め、非常に苦しい經驗をなめた列強は、いづれも國家總動員計畫の完成に急いでゐるのであります。一九三六年前後の危機に加へて、蘇國の赤化工作は其銳鋒を東洋に進め來り、國力の發展に伴ひ、活動旺んとなり、更らに、米蘇、蘇支の國交恢復の爲め、いよいよ我國も重大なる決意をせねばならぬといふ様な急迫した此時局に處するには、軍備の充實は第一の急務であります。更らに、他國に卒先して國家總動員の準備を完備するの外はないのであります。各種の要素を總動員するに當り各種工業の統制は先づ各種工業の振興に俟つ必要がありますので、左に、國產振興運動と、國家總動員準備につきその要旨のみを次ぎに述べたいのであります。

我國總動員準備の概要

資源局 資源局は内閣總理大臣の所管で各省特に陸海軍と密接に連繫し、人的、物的、資源一切の統制運用に關して、主として戰時計畫を樹て、而して戰時に於ける軍隊の莫大な需要を充たすと共に、一面、國民生活の需要をも考へて舉國一致の資源的戰爭準備を司る機關であります。

總動員に關する平時法令 我國では、未だ總動員法が制定公布せられて居ないのでありますが、大正七年公布せられた軍需工業動員法は、戰時に時ける軍需品工場、事業場の管理、使用、收容並びに軍事輸送機關、又は政府の管理する工場、事業場に對する全國民の強制徵集等を規定してゐるので此法は其範圍を軍需工業動員に限り、且つ内容が甚だ不備であるため之を總動員法として考へる場合には頗る不完全であります。然し資源調査に關しては昭和四年資源調査法令が公布せられて以來其狀況を明かにすることが出来る様になりました。

次に若干重要事項に關し、總動員が如何に計畫準備せられねばならぬかといふことにつきその概要を略述して見ませう。

イ、精神動員

戰鬪の勝負といふものが、銃や劍や、大砲などといふものよりも軍としての精神的威力といふものによつて決定せられる如く、近代戰に於ける戰爭といふものゝ終局も亦、物的資源よりも、人、

特に其國民精神に依て決せられるのであります。世界大戰に於ける露國の崩壊が國民精神の腐敗動搖によつた結果であるといふことは知られた事實でありますが、獨逸敗戰の主因も亦實に此に在つたのであります。即ち、大戰の末に於ても、獨軍は精鍊なる將兵と優秀なる裝備とに依つて、各方面の戰鬪尙有利に進んでゐたにも拘らず、銃後を守護すべき一般國民の士氣が倦怠し、戰爭繼續の意氣喪失した爲めに遂に内部的に崩壊し、次いで外征軍の敗退となり、戰敗國としての汚名を受くるに到つたのです。

平和の時に於ては大なる波瀾なく一見確立してゐる如く思はるゝ國民精神も、戰時に於ては其生活の壓迫に伴つて動搖して參り、動もすれば不平不満の念を生じ易いのであります。

然しながら、非常時には非常の手段がなくてはならぬのです。故に個人の利害得失の如き、多少の争は之を戰後にまで待たせ、多少のことは我慢させ、純正なる日本精神に立脚し、國民悉く其職分に應じ、和衷協力の実を擧げしめなければならぬのです。而して此不平を忍び不満を抑へて國家の統制に服せしむるものは、即ち崇高なる國家觀念であります。之を確立する爲には、共產主義者の彈壓のみに止まらず、國家の全面に亙り苟くもこのおそれあるものに對しては、徹底的に斷壓を加ふると共に、各教育機關を刷新革正し、且全教化團體を綜合して、日本精神の鼓吹徹底を期さ

なければならぬのです。而して戦時には國民をして、義勇奉公の至誠をつくさしむる爲には、先づ平時より農村、漁村の救済、中小工業の振興、國産振興、特權階級の横暴打破等による社會政策の徹底を期して、下は上を怨まず、上は下を苦しめず、相互に國家をよくし、國民をして其所に安んぜしめなければならぬのであります。

滿洲事變勃發以來、變轉極みなき帝國內外の情勢の爲めに、動搖しつゝあつた國民精神も、漸く沈まりつゝあるのです。此機を失せず、速に我國是に基く指導精神を確立し、國民をして向ふ所を知らしめ、一糸亂れず、來るべき危機に備ふるの準備を必要とするのであります。

ロ、人員 動員

戦時、國の要する人員は軍の必要兵員の外、軍需工業及總動員の要員で莫大なる數に上り、其供給は人口の多い我國と雖も、決して容易の業ではないのです。即ち、戦に於ける参加兵員は、到底日露戦争の時の百萬位ではありません。軍需工業要員は、世界大戦間に於ける各國の例に考へても概ね戦場にある兵員の×倍を要し、更に運輸通信、警備及總動員の執行並國民生活維持等の爲、多數の人員を必要とするのであります。

徵集統制機關の確立 此努力を補填する爲、世界大戦間、獨逸は祖國補助勤務法を制定して、滿

十七歳以上六十歳未満の男子の使用權を政府に收め、佛國亦、之にならひ國民動員法案を準備し、英國は國民勞役法に依り、一般男子を戦時に必須の業務に服せしむることとしたのです。其他の交戰國も大概之に類似して、米國の如きすら、徵兵法と登録法との制定運用に依り、國民は戦争に赴くか、働くか、然らずんば監獄に行くか、其何れかを選ばねばならぬと爲して、無爲徒食の輩を絶滅せんと努めたのです。

我國に於ても亦戦時は、健康なる男子は勿論老幼、婦女、廢失者に至る迄、苟くも用ひ得べき者は悉く之を用ひなければならぬから、其募集徵用並勞力統制の爲、全國に亘り大規模の徵集統制機關の確立を必要とするのであります。

召集猶豫、軍需工業動員法による強制徵集 而して人員資源上、戦時不足を告ぐる者は、技術職員、職工、船員、及無線電信員等で、其補填の爲には徵募の外、學校工場等、利用し得べき一切の機關を利用して、急速養成に努めても尙特に開戦當初に於ける需要充足の爲には、已むを得ず兵役關係者と雖も緊要缺くべからざるもの限り、召集猶豫の特例を設け、更に國家の必要に際して、軍需工業動員法に依り、兵役關係の有無に係らず、何人と雖も戦時に際し、軍事輸送機關、並政府の管理するか又は國の經營に係る軍需品の生産、修理に任ずる工場、事業場に強制従事せしめ得る

様になつて居るのであります。

世界大戦間、獨逸は、開戦後一年を経て失業者の比率が漸く戦前の状態に復し、佛國は失業者の消滅を見る迄に二年餘の長時日を要したと謂ふことであります。

何れにもせよ、全國民に勤勞報國の精神を喚起し、自ら進んで必須事業に従事せしむると共に、兵役關係者相互間は勿論、非兵役關係者との間に於ても、戰場に出で、死生の巷にある者と、内地に止つて暖衣飽食する者と、其負擔報酬に均衡を保たしむることは、國防觀念を強化する爲めに絶對の要件であります。

ハ、産業統制と動員

主要用需品の原料及其の工場を政府の統制下におき生産を一手に統轄統制するをいふ。

平時産業は國民生活を主體として一部の統制を加ふるに止るが、戦時産業は軍需充足を第一義として、統制經濟に依るを本旨として居ります。而して一朝有時の時に正確に變化が出来ねば、經濟恐慌の波紋を大きくし、供給を圓滑ならしむることが出来ずして、戦争遂行の信念を破壊するのです。故に平時より戦時經濟の基を確立し、平戦時の産業政策を調和して、戦時に於ける軍民の需要を満足せしむべき準備を完成して置く必要があるのです。

我國の資源は其供給と需用とに可不足ありませんでしようか。

今商品類を概括して自給し得るものと、自給して尙餘りあるもの自給し得ざるものと大要を示しますれば。

A 自給し得ずして不足を生ずるもの

- (一) 農産物——米、麥類、採油用種子——棉——麻類——砂糖——葉煙草、及蠶サタサン米等
- (二) 水産物——鹽、眞珠貝
- (三) 林産物——木材、松脂、醋酸石灰、籐
- (四) 畜産物——乳製品、牛肉及肉製品——牛皮及革類、獸脂獸骨
- (五) 鑛産物——白金——銅——鑛、蒼鉛、水銀、錫、亞鉛、鑛亞鉛、鐵鑛、銑鑛其他マンガン鑛、磷鑛——石油等

B 自給して尙餘りありて輸出もできるもの

- (一) 農産物——果實、花百合、除虫菊、藥用人參、茶、天蠶柞柞蠶繭、眞綿
- (二) 林産物——竹材——椎茸
- (三) 水産物——海草候——加工魚貝類——魚油、寒天、珊瑚

以上は只概要を述べしのみ。

滿洲國の資源を活用し得る現在に於ては、食糧、鐵、石炭の如き戰時必須資源は概ね國の需要を充足することが出來ますが、まだ石油、鉛、亞鉛、錫、「ニッケル」、「アルミニウム」、白金、水銀、石棉、「ベンゾール」、「トルオール」、生「ゴム」の如き重要資源で不足するものが少くなくないのです。是等不足資源に付ては戰時一層消費節約廢品利用等の手段を講ずるは勿論、其開發、確保、又は代用品の研究に於て萬遺憾なきを期し、苟くも資源の爲に作戰を製肘し、國民を塗炭の苦中に投ぜざるの準備が必要であります。

不足資源の開發 不足資源の開發は我勢力圏内に於て、徹底的に行はねばならぬが、之が爲には彼の鞍山製鐵所に於ける貧鐵處理、礬土頁岩に依る「アルミニウム」の製造又は夏梅鐵石に依る「ニッケル」の工業試験等、常に新なる資源と、新なる方法を以てする資源開發に着意すると同時に、戰時の爲に愛惜すべき貴重なる此種資源を、却て平時に於て涸渴せしむるの結果を招かない様に、豊富でないものにおいては、平時隨時所望の如く生産し得る準備の範圍に止めて、輸入原料を使用する生産工場を設け、戰時輸入杜絶と共に直に此内地原料に置き代ふるの著意が必要であります。輸入原油による製油事業の如き即ち是であります。

資源の保有、回收並代用 併しながら生「ゴム」或は石油の如く、我勢力圏内に於て、如何に其開發に努めて見ても質或は量に於て、我需要を充足することの出來ぬものは、資源の保有又は代用の途を講じ、尙且不足するものは已むを得ず之を輸入に俟たなければならぬのです。

資源の保有とは、製造會社に於ける原材料の貯藏等の如く、生産又は販賣上の必要に基く貯藏の外、日常に於ける家庭用器の使用等をも含めることであつて、彼の「ニッケル」貨幣の如く、平時は資源の死藏に陥らず、戰時は弊害を残すことなくして、隨時之を回收し、軍の需要に應ぜしむることを以て、理想とするのであります。資源の代用とは、亞鉛に代ふるに鋼合金を用ひ揮發油に代ふるに酒精を用ふる等、假令、規格を低下するとしても、足らぬ資源に他のありあまる資源を、以て代用せしむることであつて、之が爲には平時より斷へず研鑽を積み、且其使用に習熟して居なくてはならないのであります。

軍事優先 何れの場合に於ても資源の配當は、軍需充足を第一義とし、資源の爲に作戰を制肘せられぬことを以て本則とするのでありますから、石油の如き重要な不足資源に付ては、軍自ら努めて消費を節約し、經濟的に使用することは勿論であります。更に國內に現在あるもので取ることの出來べきものは、最後の一滴に至る迄、悉く之を軍用に使し、民間需要に對しては代用品を以

て満足せしめなくてはならないのであります。

一方近代戦は複雑して來ましたので、時として政略上の見地に基く作戰指導を必要とするに至り資源戦を惹き起すことが少くないのです。世界大戦に於ける英軍の「メソポタミヤ」作戰又は獨逸軍の羅馬尼亞作戰の如きは共に資源戦とも觀られるのであつて、我國に於ても亦其必要の生ずるであらうことは想像に難くないのであります。

二、過剰資源の對策

消化増進、生産轉換 我國輸出の大宗である生絲（殆んど全部米國に輸出）及紡績（大部は東洋各國に輸出）の如きは、國內に於ける戦時の需要は僅少であつて若し一度、輸出杜絶した場合は、之に依て生計を立つる千數百萬人は經濟的に甚だしき打撃を受けるのであるから、延ては戦争忌避の觀念を惹き起こせしむる虞が有ります。全國民をして戦争遂行に邁進せんが爲には、此の如き事が起るのは極力之を防止しなければなりません。従つて是等過剰資源に對しても、亦、努めて我勢力圈内に於ける消化増進策を確立し、己むを得ざるものは、戦時勃興すべき各種産業の轉換を容易ならしむることが必要であります。即ち滿支兩國に於ける徹底的市場の獲得、又は生絲に對する羊毛の代用、桑園の轉換等であります。

ホ、工場動員

工場の新設、擴張と轉換 戦時に於ける工場の生産分野は、需要の變動に伴ひ平時と著しく其趣を異にします。即ち軍需工場の如きは非常の勢を以て新設擴張せらるゝでありませうが、生絲、紡績の如きは需要の激減に伴つて閉鎖、縮少せらるゝか、又は他の生産工場に轉換するの己むを得ざるに至るのであります。而して本邦工場の戦時能力は固より、戦争勃發の推移、及其狀況並戦時に於ける一般の状態等に依て異りますが、工業は近年に於いて非常に躍進して來ましたが、尙且戦時に於ける巨額の需要を充足することは出來ないのであります。従つて軍需工場の新設、擴張を策する共に染料工場又はセルロイド工場の如く容易に火薬工場に變化せしめ得るものは勿論、其他の工場でも萬難を排して軍需工場への轉換を圖らなければなりません。

我國に於て最も多數を占むる生絲又は紡績工場に於て特に其必要を感じる所以であります。此外、家内工業を徹底的に利用することや工作機械の改良等、生産能力充足の爲めに、平時より周到綿密なる計畫を樹立することが必要であります。

工場の管理、使用、收容、産業系統の確立 斯くして出來た軍需工場の大部分は戦時軍の管理、使用又は收容工場として、軍の使用に供せられ、又調辨工場として直接軍需品の製造をしなければ

ならぬのでありますから、軍民の需要を顧慮し、軍需品と一般需要品との生産分野、言ひ換へれば軍需動員工場と、總動員工場との限界を明瞭ならしむる必要があります。又近世工業は複雑して居りますので、數個の段階に依る廣範圍の下請、又は部品工場を必要とするものが少からずありまして、動もすれば生産系統を無節制状態に陥れ製造上困難となる虞がありますから、需要の緩急に應ずる生産分野を決定し、産業系統を確立する爲、全工場に對する統制を強化せなければならぬのであります。

企業の合理化 之が爲には、企業組織を改變し、重要な産業は平時より各業種毎に生産機關を統合して、企業の合理化を圖ると共に、戦時の統制を簡易ならしむることを必要とします。戦時、獨逸が殆んど其工業の全部を「カルテル」化するが如き、或は伊太利が現に、平時より全産業を組合組織化するが如き、固より利害得失はありますが、共に他山の石とするに足るのであります。我國に於ても製鐵合同を始め各種の生産、販賣組合設立せられて居りますのは統制上大に喜ぶべき所でありませんが、反面消費者の立場を考慮せずして、獨占企業の弊を暴露しつゝあるものが少くないのは頗る遺憾とする所であります。

規格統一 又軍用と一般民衆用とに依る成品規格の不統一は、相互の流用を妨げ、大量生産が出

來なくなりまして、原材料は勿論、設備上に於ても亦無駄を生じ、所要補填額を累加せしなる爲めに、相互に甚だしき利害得失の衝突がない限り、規格を統一して彼此融通に便ならしむることが必要であります。

へ、貿易管理

貿易管理機關 戦時に於ける本貿易實施の適呈は、直ちに國家の戦力及國民生活に影響する所が大であつて、平時に於ても我輸出貿易の飛躍する結果、至る所に經濟的に日本を怖れしめ、戦時に我國が味方と望む國ですら經濟的敵國に加盟せしめんとする實情でありますので、特に戦時に於て新なる貿易の管理機關を設置し、政府の行ふ輸出入は勿論、一般貿易者にも鞏固なる統制を加へ、我外交折衝と相俟ち、貿易對策を誤らないことが必要であります。

之が爲めに、平時より國內外の資源状況を明にし、國際情勢の機微を捉へ、戦時に第三國は勿論之を介して敵國をも資源的に利用し得るの準備を爲しておくことが必要であります。

ト、金融動員

戦費 戦費は戦争の規模、期間等に依つて異りますが、世界大戦に於ける實績に徴しますと、平均年額獨逸は三百四十一億「マルク」、英國は十七億五千萬磅、米國は百三十一億弗の巨額に達し

て居ります。従て將來、戰に於ては我國に於ても日露戦争に於けるが如き小額（全期間を通し約十億圓）の戦費に止ることの出来ぬことは明瞭でありまして、之を調達する増税並に、公債は各利害を異にする爲め、我國情に照らし其調和を圖らなければならぬのですが、大戦間に於ける主要各國の公債は其募集年額百二十億圓乃至三百億圓に達して居るのであります。

全準備 此巨額の戦費の大部分は我勢力圏内に支出せられ、圏外支出は其一小部分に過ぎないのであつて對外支拂の外、全準備を必要としないのですから、假令外債募集が出来ぬからと云つて、直に戦争を忌避するといふことは當を得たものは云はれません。但し日本銀行の現在に於ける金保有量の程度を以てしては、満足出来ぬこと勿論であつて、之が對策は先づ我國で産出する金の海外逆避することを防止せねばならぬのであります。

物價騰貴 戦費の國內支拂に伴つて、必然的に通貯の膨脹を來し、延ては物價の騰貴を招くのであります。戦費は年々數度に分割支出せられ、之に併行して内債も亦漸次募集せられるのですから、通貨は循環に運行し過度に膨脹することなく、物價騰貴も亦從て某程度に之を抑へ且つ止めることが出来たります。世界大戦間に於ける各國の通貨は、概ね平時の二倍半乃至十倍に膨脹し物價は供給狀況に依り著しく異りますが概して二倍半乃至五倍に騰貴しました。我國に於ては食糧、鐵、

石炭等戦時に於ける最重要資源は大概充足し得らるゝ狀況にありますから其處置宜しきを得るなれば、通貨の膨脹は勿論、物價の騰貴も亦、之を最少限度に抑制することが出来たります。

子 財 政 動 員

戦争を目標として金融界を總動員して金融界を總動員し、財政金融等を其時の必要に應じて國家が其權力のある程度に於て資源機能施設の一切を統制するをいふ。さうでなければ經濟界は常に動搖、恐慌をくりかへし、總動員の全面に及び、遂には國の戦力を萎微衰退せしむる様に至るのであります。之が爲め大戦間には米國が特殊金融機關を設置して、戦争遂行上特に發展を必要とする企業に投資せしめたり、或は獨逸は貸付金庫を新設し農産物、商品等を擔保として一般に融資せしめた様なことは共に吾人の大に參考とすべき所であります。

リ、交 通 動 員

陸海軍の動員せらるゝ時は本邦の如き島國で、勢ひ海外にて一朝事有る場合は自然船腹は著しき不足を告げ、運賃昂騰と物資の海軍自治聯絡と協力し、船腹調整と運賃維持を期するため海運界の自治的統制を圖る必要がある場合は、海運の臨時的國家管理に乗り出す事あるべし、陸軍にありては汽車等の交通機關は政府の統制意の如くなるも、其他の交通機關に至りては其必要に應じ政府は統

制を爲す事あります。場合によつては船の國家管理とまで進展せられます。

(一) 技術動員

發明研究は軍の作戰資材であると共に、國民生活資源でもあり、極めて重要な事項でもありませんから、平時より全研究機關を統制し、國の必要に基いてこの運用を講ぜなくてはならないのです。先般、發表せられた國家重要研究事項の如きは、即ち其端緒であると謂ふことが出来るのであります。

(二) 警備

戰時陸海空軍に對する警備の完璧を期せんとするには、平時より軍の警備を中心として全警備機關の統制ある警備計畫を樹立しなければなりません。敵の空襲に對して特に其必要を認むるのであります。

(三) 情報、宣傳

情報、宣傳戰が平時戰時を通じて必要であることは勿論であります。特に戰時に於ては國の内外に對して、極めて重大なる影響を及ぼすのですから、全機關を統制し、一貫した方針に基づく計畫準備を必要とします。

(四) 戰時法令

戰時施行せらるゝ各種の運用統制策は、平時と著しく其趣を異にしますから、別に戰時法令を準備しなくてはならないのです。彼の軍需工業動員は下時法令の重大要素をもつて居りますが、尙附け加へべきものが少くないばかりでなく、未だ施行の體系を有して居ないのであります。

(五) 國民動員

國民の從業を統制して勞働を強制し、産業の振興を圖り一面國民の食料政策を通して國民の消費を定め、教育を戰時の要求に適せしめてその態様を變改し、演藝、學術、娛樂等の如きものをも同様に戰爭に寄與せしめ、現時の事變「ニュース」の如き即ち國家權力の及ぶあらゆる資源——機能——施設の一切を統制按排するのであります。

國家の綜合的發展と國家總動員準備

國家總動員と言ふ觀念は、大體其の由來を彼の世界大戰に發する。一朝有事に際しては、各般の人的及物的資源が其の體に於て、又其の用に於て、國防力として最も有効に、最も敏速に其の効果を發揮せしめられなければならぬ。而して、其の爲には、平時から其の綜合的準備を整へて置かねばならぬと言ふことが大戰の結果特に著しく各國に認められるに至つたのである。

國家總動員準備に於ても、所謂統後の力は畢竟國力の發現に他ならないのであるから、其の涵養即ち人的及物的資源の保育施設が最も根本的な問題である。或は國民智力、體力の養成を、或は國家觀念の養成を、或は天然資源の保護開發を、或は原料、材料、燃料、動力等の給源の確保を、或は生産配給の機能と培養を、或は代用品又は廢品の回收利用を、或は科學的試驗研究の奨励を、將來戰の愈々大規模と爲り所謂統後の力の要求せられること益々強きに伴ひ、其の施設は極めて廣範圍に亘つて必要とせられ、凡そ平時施設の全般を蔽ひ尙之に加ふべきものあるに至つた而して其の保育の施設は、やがて國力を涵養し民福を増進すべき關係に在り、國力の涵養と國家總動員準備とは此の點に於て其の歸趨を一にするものと言ひ得るのである。然しながら、なほ専ら平時を主眼として施設する場合と有事の際を目標として施設する場合とは、其の間、時に自ら相扞格することなきを得ないことは寔に已むを得ない所であつて、其の綜合調和には萬全の注意が拂はれねばならぬのである。此の爲には平時の綜合的施設の或るものが、或は目前の民福増進と矛盾するもの之を容認せねばならぬ場合があらう。工業立國は今日人口問題解決の點からも、海外市場の變遷に鑑みるも最も重要な方策ではあるが、徒らに其の赴く所に任せ農業を輕視せんか、一朝有事に際して國民の給養に困難を來すは必然であつて、之に備へて宜しく綜合的に其の兩全を期すべ

きことは、彼の世界大戰に於て各國の經たる經驗に徴して極めて明白であると言はねばならぬ。之に反し國家總動員準備の見地からのみ説いて、必要資源の自給を計り性急に其の實現を期せんとするが如きは、亦其の平時に於ける民福を害すること極めて甚だしきものであつて容易に之を採り得ないのである。其の間の綜合調和は箇々の具體的問題に當つて極めて困難なるものがあるけれども事國防の安危と國民の福祉とに係り苟くも忽せにすべき問題ではないのである。況んや、兩者は互に相關聯して居り、其の根基を一にするものなること前述の如くであるに於て、益々相間然する所なき圓滿なる諧調が期せられねばならぬのである。

以上の如き保育施設は宜しく有事の際に於ける需要と供給とを照合し確固たる計畫の上に爲されねばならぬ。不足資源に對しては、其の需要に對する配當の計畫と共に之が補填の計畫を樹てねばなりませぬ。

其の補填計畫中平時より之が準備施設を要するもの、例へば増産計畫、代用品利用の研究、平時に於ける貯藏保有等は直ちに之を實施に移さねばならぬ。一方、有事に際して其の消費を制限し、其の樹て、置かねばならぬ。編成、利用、管理の諸計畫は即ち之である。又將來戰は一面情報宣傳の戰爭であると言はれる位であつて、情報宣傳は國の内外に亘つて戰爭の有效なる遂行に缺く

べからざるものであるから、之に付ても適切なる計畫を樹て、研究立案することは極めて重要であると言はねばならぬ。警備に付ても、有事の際に於ける其の整備は國力の有效なる發揮に缺くべからざる重要な要素たるものであるから、之に付ても宜しく萬全の方策を研討し其の計畫に遺漏なきを期して置かねばならぬ。而して總て之等の諸計畫は、相俟つて渾一せる國力の最も有效なる發揚を得しむる様調整せられねばならないのである。

之等の計畫を樹てるに當つて其の基礎と爲るものは調査である。計畫、施設の廣範圍に亘るに伴ひ廣く各般の人的及物的資源に付其の現況及其の變動の趨勢又は可能性を調査し置くことは、特に緊要なるものがあり、清新にして適確精密なる調査の成否は、之に基いて爲される諸計畫、諸施設の生命を扼するものと言ふことを得るのである。而して之が調査の成果は、又同時に平時に於ける各般の施政に於て、計畫乃至施設の資料たり得るものであつて、而も其の範圍は極めて僅少なる例外は別として概ね一致し重複すべきものなること上述したる兩者の關係よりして自明の理であるから、政府に於ては、夙に此の點に鑑み昭和四年四月十二日法律第五十三號資源調査法及關係諸命令を制定施行して、調査の反覆煩雜を防ぎ相互の便益に資して居る次第である。國力涵養上、又國防上、重要な諸計畫、諸施設の基礎資料を供する其の機能に鑑み、同法施行上特に緊密なる協力

を期待する所以である。

調査研究は又世界各國に於ける有事の際の諸施設、諸制度に付ても亦極めて必要であつて、此の題に於て世界大戰中の交戦各國の制度施設の調査研究は誠に貴重なる資料を我々に供するものであつて、宜しく其の長短得失を仔細に攻究して計畫及施設に資せねばならぬ。

以上を以て國家總動員準備の概要を述べ、其の根柢が、畢竟國力の涵養に在り、現下の我國に於て特に其の綜合的調和的發展に意を用ふべき所以を説いた。のであります

我國に於ては夙に此の點に鑑み、内閣總理大臣の管理の下に資源局が設置せられ、資源統制運用計畫の設定並に其の實施及準備に必要な各般の調査及施設の調整に任じて來たのであつて、恰も本年五月二十七日を以て滿十年を経るに至つたのである。固より綜合的なる國家總動員準備が、廣く、各廳の夫々擔任する所に従ひ、益々其の間然する所なき協力を必要とする事項であるが、所詮は、一般國民が夫々の立場に於て各不斷の寄與に努めねばならぬ問題であつて、特に其の根柢たる國力の涵養に付ては時運の進展に伴ひ、之に應じ、之に處して適切妥當なる方策を講ぜんが爲には今後に於て一層其の舉國協力一致を必要とすること切なるものがある。是れ、此の時に當り國家總動員準備の要諦を説いて、普く一般の戮力を冀望する所以である。

我國軍需品工業の狀態

近代の戦争は萬事に機械化せられて多數の新兵器は日に月に發明され先づ大砲の如きも四十三糎砲、爆撃砲、列車搭載砲の發明あり、其他タンク、戦車、装甲自動車、毒瓦斯、煙幕、毒瓦斯に對するマスクあり又巨量の銃砲彈、飛行機、通信器具たる電信、電話、無線電信、兵器糧食の運搬用各種自動車等が大量に要求せられ従つて戦時には軍需品の量は非常に夥多なるものなり。

平時に於て他日に備へて軍需品を取置へ置く事も考へられる、さればなか／＼大變にて一定の限度あり且つ日に月に進歩する機械類の貯藏はなか／＼不可能なるのみならず經濟上からも到底不可能であります。

こゝに於て軍需品の需要が急激に充たされるためには民間工場殊に平時平和的商品を生産する工場を國家が總動員して製作する事が必要なり。

然れば如何なる工場が軍需品工場に變更せらるべきか又如何なる軍需品の製造に参加すべきか其大要を述べます。

(一) 金屬工業

近代戦争の機械化具體化となりたる結果として金屬工業は總べての工業を通して軍需品工業として第一位に屬するものである。

(二) 機械器具工業

一、航空機、自動車工場

航空機が實戦上最要任務を有する事は今更説明する必要もない。

自動車製造工場には少數の官營と三百餘の民間工場ありて職工として従事せるもの九千餘名以上であります。

フオード、ゼモの如き外國資本によるものあるが是等は殆んど全部材料を輸入し唯組立てのみ行ふ組立工場なり。

二、砲彈火具裝置

戦争が永引き大規模となれば只砲彈火具を製造する工場のみでは間に合はなくなり左の工場は端的軍需品工場に編入さるゝ様になるであらう

一、壓搾機水壓機を有する各種工場は砲用藥莢の製造に

二、時計樂器計器クイプライター製造工場は信管其他火具部品の製造に

三、旋盤を有する各種工場は砲彈製造に

其他眼鏡工場は射撃其他の觀測に必要な望遠鏡を、電信電話電線工場は通信其他の諸器械を化學工業用機械器具製造工場には爆藥毒瓦斯製造に必要な化學工業用器具を製造するに致るならん其他諸工場も航空機とか自動車の部分品工場に轉化せざるべからず

歐洲大戰の場合には砲彈、小銃彈の消費量は實に膨大なるものにて日露戰奉天戰に於て日本軍の消費せる彈數は三十四五萬でありしが然るに歐洲大戰ベルダン戰に於ける獨軍は二千萬發で奉天會戰の六十倍以上なりしと。

又日露戰役中の消費砲彈數は全期約一ケ年を通じて百萬發位なりしが歐洲戰役に未だ四ヶ月の佛軍の消費彈數は約七十萬發約七十倍なりし。

即ち戰爭が永引けば各種工場の作業變更が必要となり此の動員を得て始めて銃、機關銃、砲彈、小銃實包、藥莢、信管火具類其他車輛の充實が行はれざるべからず。

化學工業

化學工業は火藥爆藥と毒瓦斯との原料を供給し軍需品工業中重要なものなり、例へば「イペリット」瓦斯彈二百トン在空中より全東京に等しき地域に投げ散布せらる東京全市の大部分はは砒素

の劇毒に蔽はれるといふ。この新兵器はその作用の烈しさは火藥爆藥以上に有功なるものなり。

毒瓦斯製造に付て

毒瓦斯は歐洲戰爭の時獨軍により初めて使用されたが其當時は只單純なる鹽酸より氣化せる瓦斯に過ぎざりしが其後百種の毒瓦斯が試給されてなか／＼恐るべきものが發見せられたりと。

今戰時に毒瓦斯製造工場に轉化し得べきものは大要

- 一、染料工場、塗料顔料製造工場
- 二、グリセリン工場
- 三、油脂硬化工場
- 四、空中窒素固定工場
- 五、人造絹糸製造工場
- 六、各種工業用品製造工場



昭和十二年九月九日印刷
昭和十二年九月十三日發行

版權
所有

編纂者

印刷者

印刷所

定價金拾錢

送料金三錢

東京市日本橋區江戸橋二丁目三番地
殖産ビル

打田博幹

東京市神田區錦町二ノ五
前田宗松

東京市神田區錦町二ノ五
株式會社 文成社

發行所

發賣元

京阪神特約店

東京市神田區錦町二ノ五
株式會社 文成社

東京市神田區多町一ノ七二
貴田順生堂

大阪市大裏
新生堂書店

